

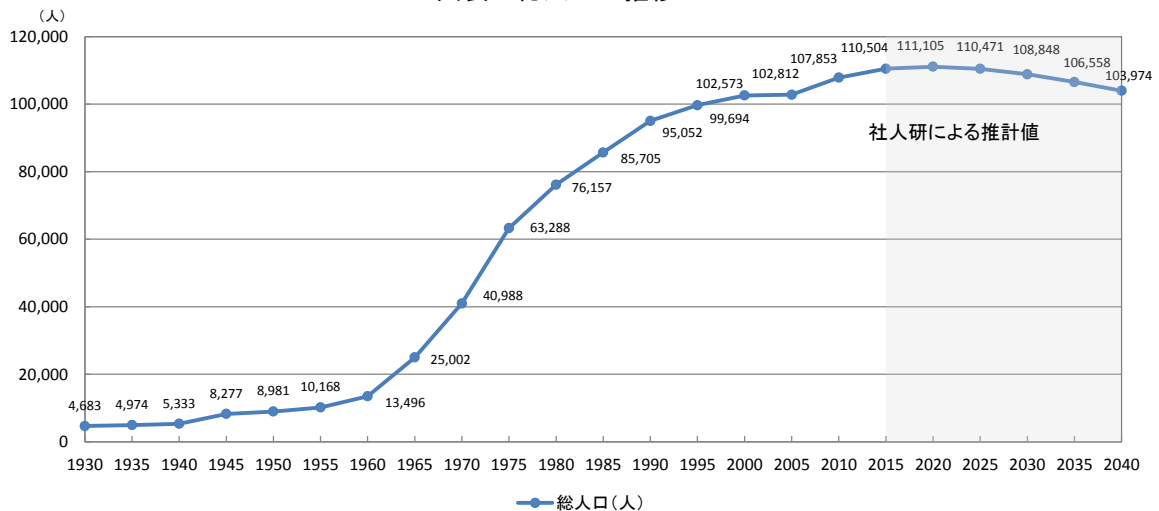
鎌ケ谷市人口ビジョン 概要版（案）

■鎌ケ谷市の人口の状況

<総人口の推移>

本市の人口は、昭和 35（1960）年から増加傾向が続き、平成 17（2005）年に一旦減少に転じるも、平成 22（2010）年は約 10 万 8 千人となっています。国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計では、平成 32（2020）年に約 11 万 1 千人まで増加し、その後は減少傾向が続き、平成 52（2040）年には、約 10 万 4 千人程度まで減少すると推計されています。

図表 総人口の推移

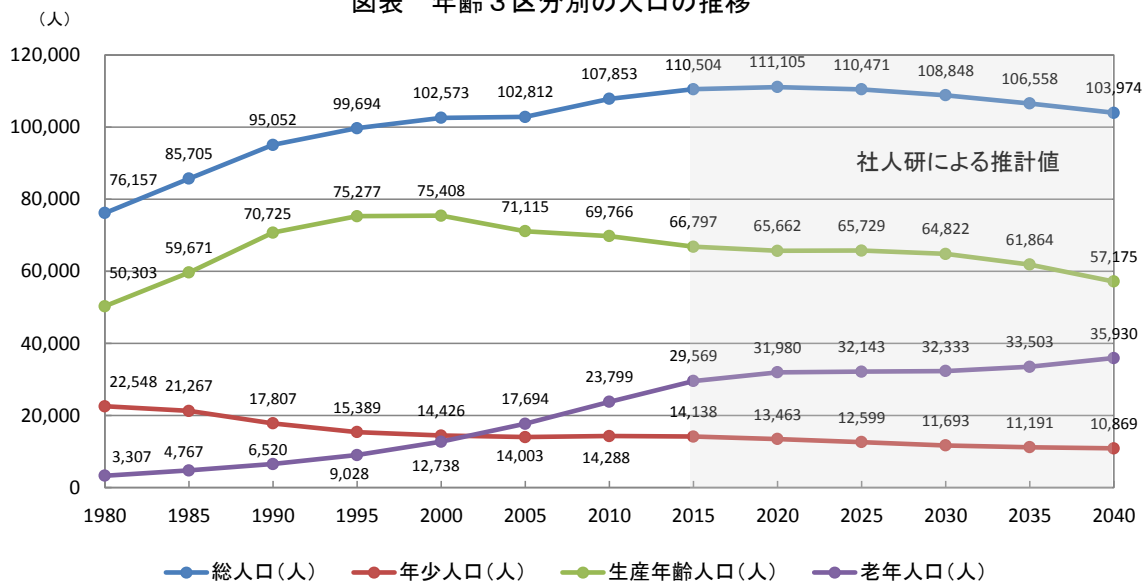


資料：国勢調査（1930～2010年）、国立社会保障・人口問題研究所平成 25 年 3 月推計

<年齢3区分別人口の推移>

年少人口（14 歳以下）及び生産年齢人口が減少する一方で、老年人口（65 歳以上）は増加を続けると予測されています。

図表 年齢3区分別の人口の推移

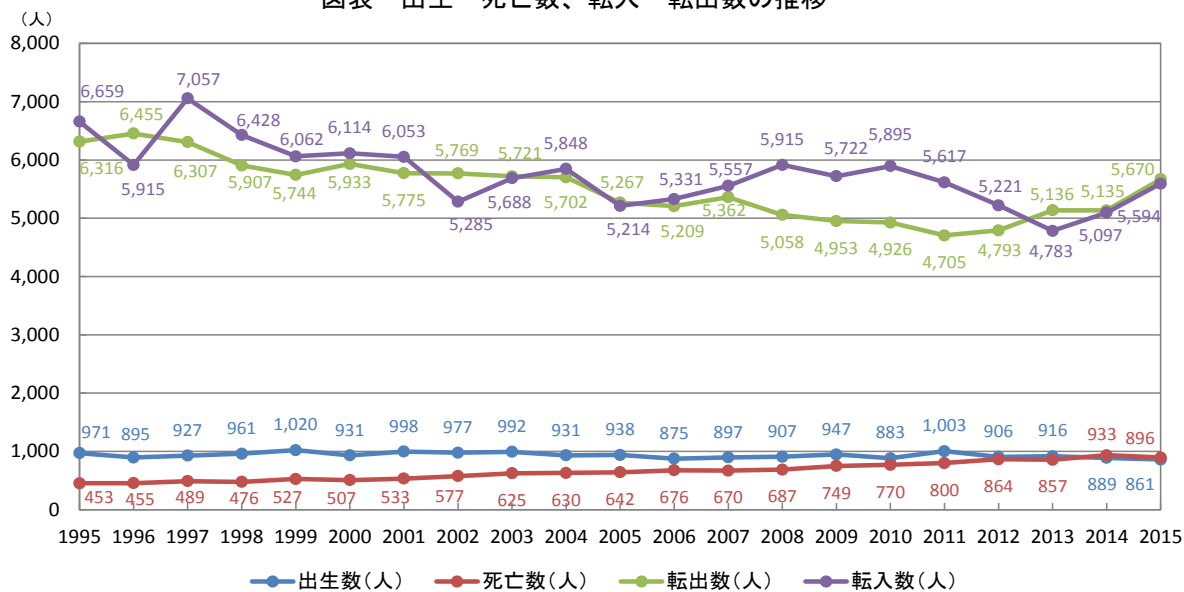


資料：国勢調査（1930～2010年）、国立社会保障・人口問題研究所平成 25 年 3 月推計

<出生・死亡数、転入・転出数の推移>

出生数は平成7（1995）年以降大きく変化していませんが、死亡数は徐々に増加傾向にあります。平成23（2011）年から、転入の減少及び転出の増加がありました。平成25（2013）年から転入が増加傾向に転じています。主な転出先は、船橋市、松戸市、柏市などの周辺市町村が多くなっています。

図表 出生・死亡数、転入・転出数の推移

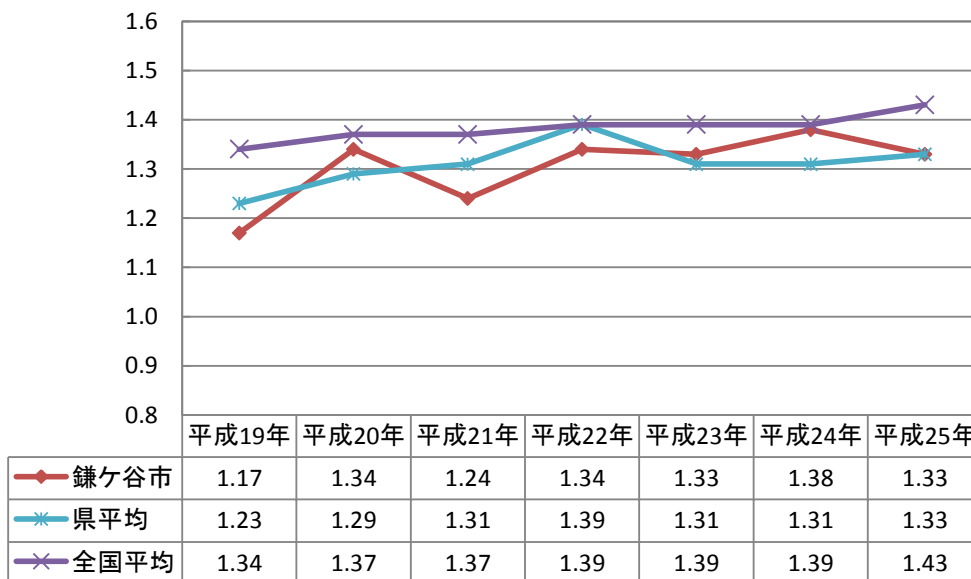


資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

<合計特殊出生率の推移>

本市の合計特殊出生率は、全国平均と比べ低い値となっています。年により増減はあるものの、概ね千葉県平均と同水準で推移しています。

図表 合計特殊出生率（平成19（2007）年～平成25（2013）年）

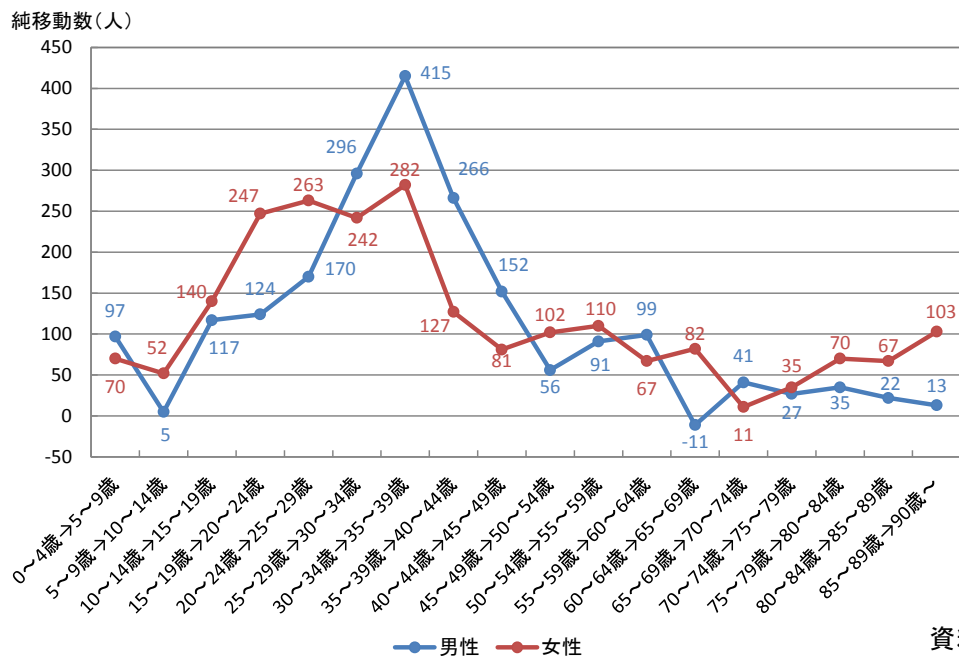


資料：厚生労働省「人口動態推計」、千葉県衛生統計年報

<性別・年齢階級別の人口移動の状況>

男女ともに 20～30 歳代の若い年齢階級で転入超過となっていますが、とりわけ男性においては、30 歳代の子育て世代、女性においては、10 歳代の高校や大学への進学に伴う転入及び子育て世代における転入が多くなっています。

図表 平成 17 (2005) 年→平成 22 (2010) 年の年齢階級別人口移動



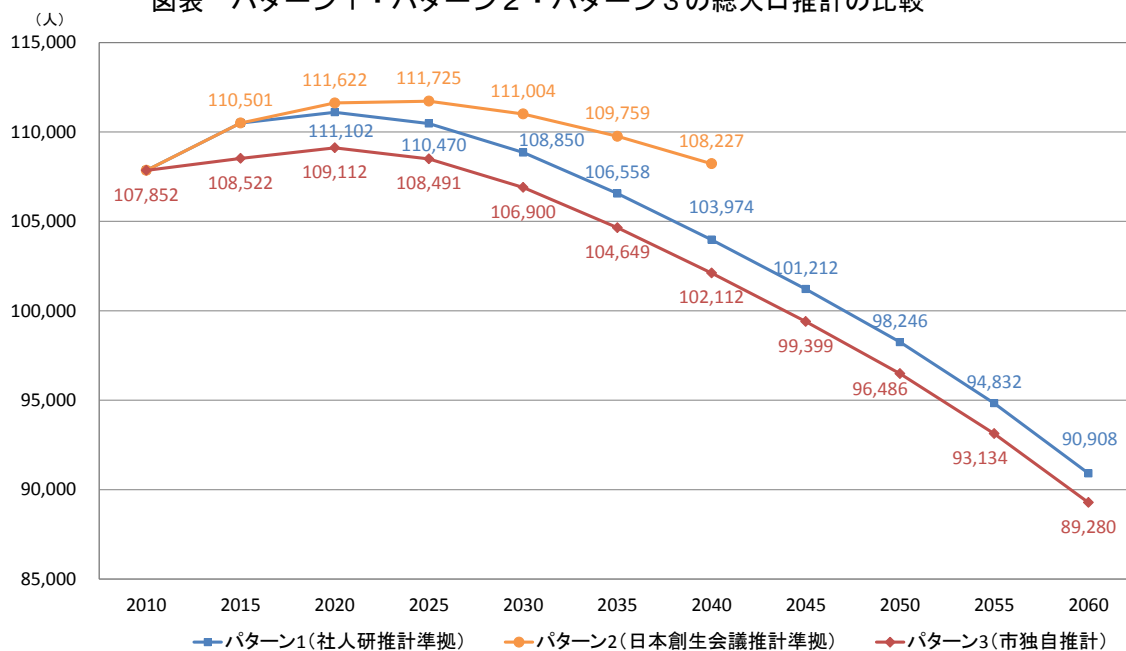
資料：国勢調査

■将来人口の推計

本市の将来の人口は、平成 52 (2040) 年にパターン 1 (社人研推計準拠) では 103,974 人、パターン 2 (日本創生会議推計準拠) では 108,227 人と予測されています。

また、パターン 1 の推計を利用し、平成 27 (2015) 年の人口を常住人口の実績値を採用して行った市独自の推計 (パターン 3) では、平成 72 (2060) 年の人口は 89,280 人と予測されます。

図表 パターン 1・パターン 2・パターン 3 の総人口推計の比較



■目指すべき将来の方向

子どもからお年寄りまで、あらゆる世代がいつまでも安心して暮らすことができる、活気と魅力あふれるふるさととなることを目指します。

この実現のため、次の3つの方向を示し、様々な分野にわたる取組を長期にわたり実施していきます。

①鎌ケ谷の未来を担う、若い世代の希望を実現 —出生率の向上—（自然増）

本市は、豊かな自然を有する地域であり、子どもの健やかな成長に適した環境が整っています。このような環境を活かし、多くの人々が子どもを産み育てることができるよう、若い世代の結婚、出産、子育てにおける様々な希望をかなえるための取組を進めます。

②人々が集まり、住まう、魅力あふれるまちの実現 —人口の流入増—（社会増）

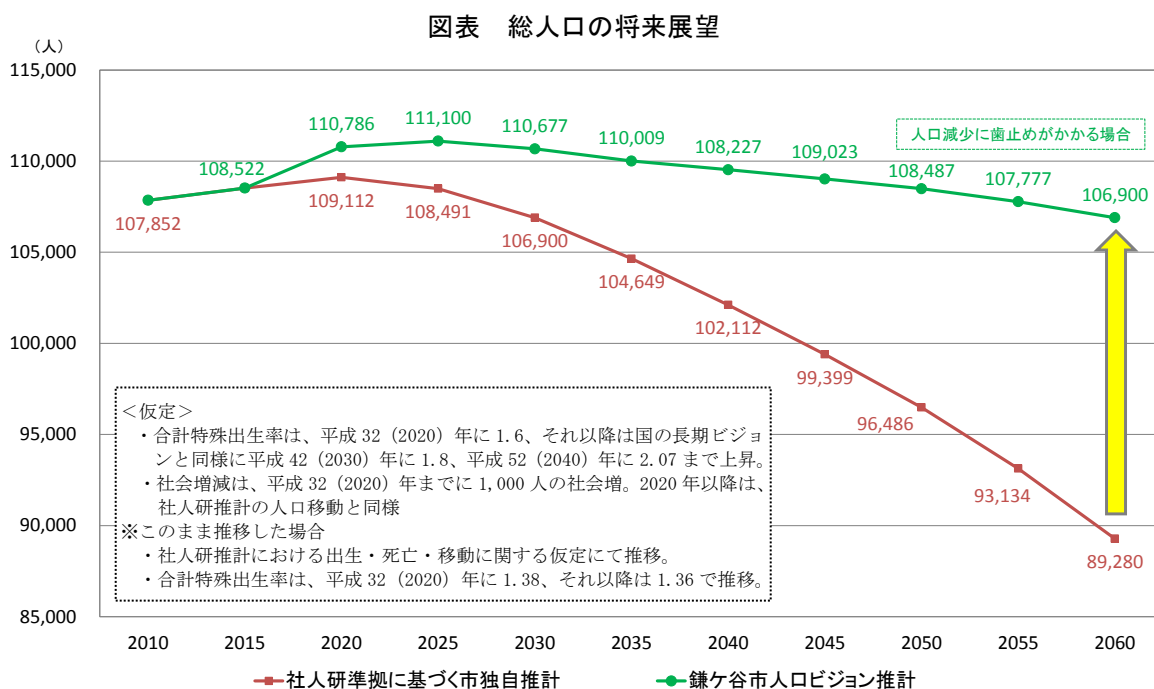
安定した雇用の確保、創出及び働きやすい環境の整備、教育環境の充実等により、人口の流出に歯止めをかけます。また、地域資源の活用による鎌ケ谷市の魅力向上・発信等により、人口の流入も進めていきます。

③いつまでも安心して暮らすことのできるふるさとの実現 —暮らしやすい社会づくり—（定住）

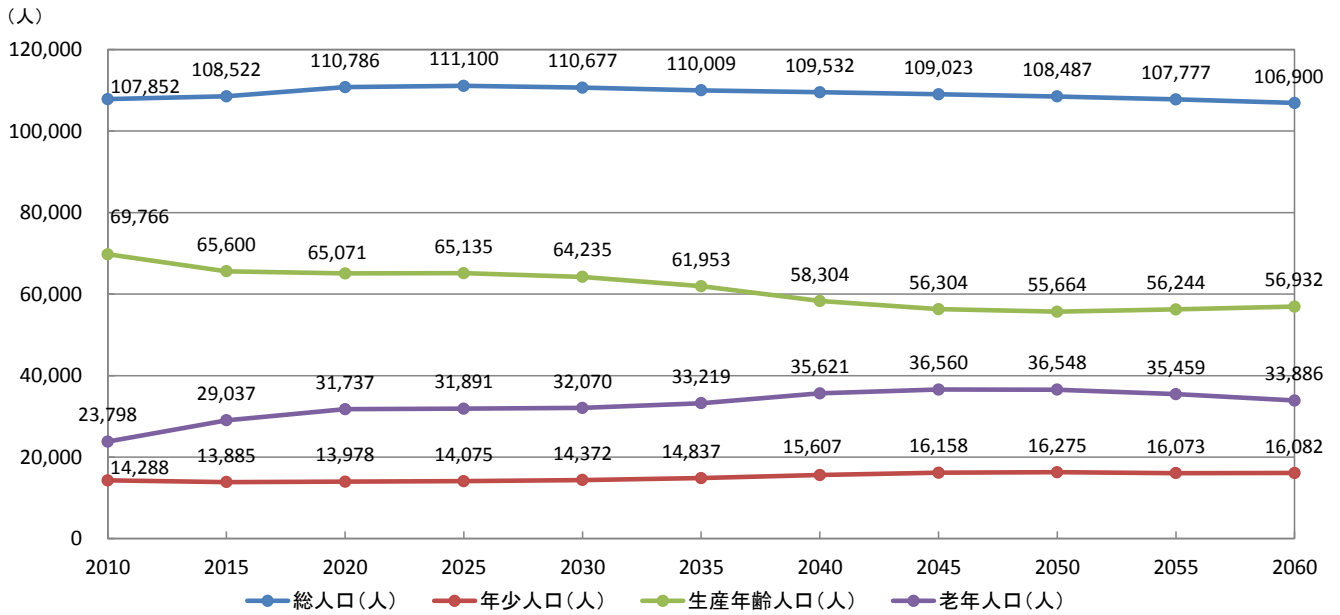
人口減少が進む中においても、その時々において移り変わるニーズに対応するため、地域が連携し支え合い、鎌ケ谷に住むあらゆる世代の誰もがいつまでも安心して暮らすことのできるふるさとづくりを進めます。

■人口の将来展望

「目指すべき将来の方向」に沿って対策を進めることにより、本市の総人口は平成 72（2060）年に約 10 万 7 千人で安定します。



図表 鎌ヶ谷市人口ビジョン推計における年齢3区分別の将来展望



	平成22 (2010)年	平成27 (2015)年	平成32 (2020)年	平成37 (2025)年	平成42 (2030)年	平成47 (2035)年	平成52 (2040)年	平成57 (2045)年	平成62 (2050)年	平成67 (2055)年	平成72 (2060)年
総人口	107,852	108,522	110,786	111,100	110,677	110,009	109,532	109,023	108,487	107,777	106,900
年少人口 (%)	14,288 (13.2%)	13,885 (12.8%)	13,978 (12.6%)	14,075 (12.7%)	14,372 (13.0%)	14,837 (13.5%)	15,607 (14.2%)	16,158 (14.8%)	16,275 (15.0%)	16,073 (14.9%)	16,082 (15.0%)
生産年 齢人口 (%)	69,766 (64.7%)	65,600 (60.4%)	65,071 (58.7%)	65,135 (58.6%)	64,235 (58.0%)	61,953 (56.3%)	58,304 (53.2%)	56,304 (51.6%)	55,664 (51.3%)	56,244 (52.2%)	56,932 (53.3%)
老年人口 (%)	23,798 (22.1%)	29,037 (26.8%)	31,737 (28.6%)	31,891 (28.7%)	32,070 (29.0%)	33,219 (30.2%)	35,621 (32.5%)	36,560 (33.5%)	36,548 (33.7%)	35,459 (32.9%)	33,886 (31.7%)

人口減少や少子高齢化が進むと、社会保障費の増加による現役世代の負担増大や市の財政状況への影響が懸念されるほか、労働力人口の減少や消費市場の縮小による地域経済の縮小、雇用機会の減少を招き、ひいては都市機能の低下につながるなど、地域経済社会に甚大な影響を与えることとなります。

本ビジョンでは、人口減少を克服するための目指すべき将来の方向性と、本市の総人口が平成72（2060）年に約10万7千人となる将来展望を示しています。

人口減少問題は、あらゆる主体が同じ認識のもとに立ち向かっていく必要があるため、本市では、基本目標や施策の基本的方向、具体的な施策を示す「鎌ヶ谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、地域のあらゆる主体の皆様と共に取り組んでいきます。